

関係団体ヒアリング調査結果

資料	No. 2
----	----------

団体名
あま市身体障害福祉協会
美和心身障害児者父母の会
希望の会
七宝障害児（者）を持つ親の会 通称 つくしの会
はとぼっぼ（幼稚部） ちびはと
ドルフィンクラブ
蓮の実会

1. 活動及び事業の状況	
あま市身体障害福祉協会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日帰りのバス旅行「会員の集い」の実施 2. クラブ活動の実施（カラオケ、ゲートボール、スポーツ吹矢、グランドゴルフ、フライングディスク） 3. 機関紙「あま身障たより」の発行（3～4回／年） 4. 愛身連等主催の障害者スポーツ大会への参加（県スポーツ大会、グランドゴルフ大会、ゲートボール大会、フライングディスク大会等） 5. あま市社協主催事業への協力・参加（野外研修、健康福祉まつり、平和祈念式典、ふれあいグラウンド大会等）
美和心身障害児者父母の会	<p>[総合資料（事業報告・事業計画）添付します。総会年1回]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月第4火曜日15：00～海南病院臨床心理工による療育相談 ・年3回 愛厚弥富の里、相談支援員による療育相談 ・毎月1回役員会実施 上部団体（海部連合会、菜の花会） <p>総会 療育こん談会 チャリティコンサート、春の親子大会、ふれあい交流会、クリスマス会等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年1回 社会見学等 実施（昨年はセントレア滑走路ツアー） <p>[収益事業として]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルミ缶回収事業、化粧品販売事業、自動販売機設置
希望の会	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい程度が違うため保護者会等を通じて互いの情報を交換し合い親睦を図っています ・愛厚弥富の里療育支事業を利用し勉強会をしています
七宝障害児（者）を持つ親の会通称 つくしの会	<p>[あま市親の会としての活動が主になっているので]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・七宝の親の会の単独の活動としては年一回秋に療育 相談会を愛厚弥富の里の地域コーディネーター、あま市障害相談所の方を招いて行っている ・2ヶ月に一度 心配事相談を第2木曜日に行っている ・会員相互の親睦を兼ねて年1回親子で交流会 ・化粧品販売での収益事業 ・海部地区心身障害児者保護者会 連合会の行事、勉強会等に参加

<p>はとぼっぼ（幼稚園）ちびはと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月 第2木曜日に勉強会、親の交流会を行っています。 第1・3木曜日就学前の子の音楽療法若山美幸氏 第2火曜日就学後の音楽療法加納まき子氏 ※言語聴覚士の國島先生との勉強会 ※2月にはサポートブック作成会
<p>ドルフィンクラブ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・茶話会を中心に、集まって話し合い。（1学期に1度） ・1学期に1度市の相談員さん、心理の先生を呼んでの相談会。 ・以前はクリスマス会などの交流会をしていましたが、子供の年齢の幅、障害の程度の違いがあり、内容を考えるのも難しく現在はやっていません。
<p>蓮の実会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年9月17日津島市文化会館にて障がい者支援NPOねんきんCaféと協力して、中高年障がいの生活支援をテーマにセミナーを開催。参加者28名。 ・来年度の精神障がい者保険福祉手帳所持者全科医療無料化にむけて津島、あま市、役所および市会議員に対して働きかけを行っている。

2. 団体の課題及び事業を展開する上での課題	
あま市身体障害福祉協会	<p>1. 会員の高齢化 (七宝支部の場合、30才台 2.5%、40才台 7.5%、50才台 1.2%、60才台 17.5%、70才台 53.8%、80才台以上17.5%であり60才未満の会員が少ない)</p> <p>2. 会員の減少 (H23年度219名→H26年9月現在183名)</p> <p>3. 入会率が低い (身障者手帳交付者の当協会への入会率は約7%と推察される)</p>
美和心身障害児者父母の会	<ul style="list-style-type: none"> ・加入保護者の高齢化により、活動が不活発になってきている ・地域福祉が少しずつ向上してきたのは嬉しいことですが、受け皿が増えた事により、保護者の“～しなければ”意識が希薄になってきている。障害児者の年齢層幅広く、障害も様々でニーズが多様化 ・若い保護者さんが加入されない(目に見える直接のメリットのみが優先) ・保護者の高齢化に伴い将来の課題はいっぱいあるのに通所型の生活介護施設や就労支援施設に子どもがおち着くとそれで安心してしまう保護者が多く、その先にあるもの来るべき時に思いが至らない方が多い。
希望の会	<ul style="list-style-type: none"> ・親亡き後の子どもたちの生活環境を整える為に何が必要か考え住み慣れた町で安心して暮らせる様に自助努力していますが、その為にも地元グループホームを建てたいと思うのですが地域の理解も含め子供達を安心して頂ける指導者及び世話人をみつける事等 課題は山積みです。 ・地域と関わりながら行政がバックアップして頂ける事が出来るならば大変大きな力になるのですが、地元にはまだ日中支援の場所(A型、B型、生介)、GH、親なき後の後見人等、障がい児者を取りまくすべての事が十分とは言えない状況です。地域資源を活用しながら安心して暮らせる様、協力をお願いしたいと思います。
七宝障害児(者)を持つ親の会通称つくしの会	<ul style="list-style-type: none"> ・会員数の減少(死亡、脱退等)と新規の会員(若い世代)が集まらない。→ネット等で情報が入る時代、とか親が活動する事がイヤだとか→時代おくれの考えだとかいう理由が多いようです。 ・会員の高齢化→協力したい気持ちは強いが、体がついていかない、おっくうになる→ただ子を思う気持ちは以前のように強い→体がついていかないのがゆさ大
はとぼっぼ(幼稚園)ちびはと	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢の差が出てきた課題がかわってきた。 ・行政との関わりはあるが ちびはとの存在が広まっていかない所がある。 ・テーマや講師の人がくるときは人はあつまるが仕事持っている人も多く人が集まらない事が増えた。 ・福祉サービスを知らない人が多い。 ・手帳を持っていない子の進路の難しさ。(中学校の発達 障害の理解の低さが大きい。)

ドルフィンクラブ	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の提供不足。相談員さんの確保（費用をあまりかけずに） ・役員さんの負担（皆仕事をしている方も多く、子どもに手がかかるので） ・プライバシーの保護 ・上下のつながり、就学、就労問題を考える際相談したいが、上の方は遠のいていくので、相談できない。 ・新入会員が入ってこない。発達障害の診断がつかないと入って来られないが、グレーゾーンの子が多く、以前程診断をすすめられないとのこと。
蓮の実会	—

3. あま市の障害福祉施策・事業(サービス)についての課題・提案	
あま市身体障害福祉協会	<p>1. 福祉サービスを受けるためには身障手帳を持っているだけではだめで障害支援区分認定を受ける必要がある。このことや福祉サービスの種類の周知徹底</p> <p>2. 手帳交付時における行政窓口での身障福祉協会等への入会案内</p>
美和心身障害児者父母の会	<p>・美和町時代は良いことを前向きにするなら応援して下さる事が多かったと思いますが、今は所帯が大きくなったぶん融通がきかなくなり前向きに検討するという言葉は少なくなり、まず“できないダメ”が多くなったように感じます。よりよくなるための合併だったはずなのに…。</p> <p>これは過渡期におきる一時的なものなのか、それともずっとこのまま行くのか…。特に社協さんは局長さんが毎年代り、それに伴い方針も毎年変わり、これで良いのでしょうか？一つの方針の基、良いことはどうやったら将来的に可能なのかそういうスタンスで考えて頂けると嬉しいです。</p>
希望の会	<p>・福祉サービスの拡充ができるよう。地域の情報を提供してほしいです。</p>
七宝障害児(者)を持つ親の会 通称 つくしの会	<p>・愛西市を例に上げて申し分けないのですが、社協に委託の日中一時支援、グループホーム等、台所事情はわかりませんが一歩進んでいると思います。あま市も5年目をむかえたのでそろそろ取組み計画がほしいです。(菜の花会総会時には毎年会員さんより意見がでて、社協会長等のお耳には入っているとは思いますが、仲々むずかしいような感じでしたが)</p>
はとぼっぼ(幼稚園)ちびはと	<p>・ペアレントトレーニングをしてほしい。子育ての難しさがあるため心理士を(知識の豊富な人)あま市に常駐してほしい。サービスのことを知らない人が多い。小学校に入って初めて受給者証のことを知る人も多い。手帳がないともらえないと思っている人もいる。</p>
ドルフィンクラブ	<p>・障害者専用。災害支援について具体的に検討して頂きたいと思います。避難所での宿泊体験等、行政でしかできない形だけではない訓練ができると有難いです。</p>
蓮の実会	—

4. 障害福祉サービスや地域生活支援事業でニーズはあるものの、不足しているサービス	
あま市身体障害福祉協会	<ul style="list-style-type: none"> 1. 障害者の移動支援（休日のあま市所有のバス運行も含む） 2. ショートステイ施設
美和心身障害児者父母の会	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス提供事業者や所は増え、その時、その場のニーズには応えてもらえるようになってきていると思いますが、一番大切なのは障害を持っている方のライスステージをホールで考えること!!支えることを考えるなら親亡き後の受け皿も含めて一緒に考えて頂きたい。 ・大型の入所施設が増える見込みはなく、それならばグループホーム等の介助型共同生活の場所がより多く必要になってきます。 ・このような施設は親の会の力だけでは、とても難しく社会福祉法人さんの力が必要です。愛西市の社協さんが立ち上げられたグループホームなどは画期的で良い道しるべとなっていると思います。 ・ぜひこのような先達を追いかけて、“できない無理”ではなく、どうしたらできるのか先考えられたらと思います。
希望の会	<ul style="list-style-type: none"> ・あま市には、ショートステイの為の施設がないので、市内にぜひ作って欲しい。 ・日中支援（児童、中高生、大人）GH、相談支援事業、生活介護
七宝障害児（者）を持つ親の会 通称 つくしの会	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム（あま市に限りませんが）必ず必要かと思います。 ・B型事業所での美和では送迎サービスが4月から始まったと聞きましたが、各地区でもやってほしい（ただ、七宝に関しては親の話をきくとあるといいと思っている方もいるようですが、そこで止まってしまっているようですが）
はとぼっぼ（幼稚園部）ちびはと	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の放課後デイやヘルパーが少ない。利用したいと思っても丁寧な支援をしているところは定員がいっぱいの状態である。
ドルフィンクラブ	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の余暇活動サービス、休日の支援、移動支援 ・グレーゾーンの子ども達、母親への相談支援 ・就労・就学時の情報提供 ・特別支援級の情報提供 専門の先生の配置・支援 学卒後の余暇支援は絶対に不足していると思います。 ・成長に対応した中学高校進学、就労までを各窓口ではなく1つの流れとして一括で相談できる窓口又は、サポート部分の充実。 ・グレーゾーンの子の特性を理解した上での勉強面をサポートする場 ・不登校、引きこもりに対応した、出掛けて行ける場 ・形だけではなく皆が利用できる中身の充実
蓮の実会	<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉サービスを総合的に相談してくれる部署（精神 身体 知的合同）

5. あま市の障害のある方の就労促進についての課題・提案	
あま市身体障害福祉協会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 雇用主に対する法定雇用率の遵守の徹底と啓発 2. 就業継続支援施設の交流により作業生のB型からA型の移行を図る。
美和心身障害児者父母の会	<ul style="list-style-type: none"> ・今は経済の状況があまり良くないので難しいとは思いますが、就労支援B型などを利用されている方を一般企業へ派遣し体験就労も良いかと思う。企業側の理解にもつながるし定着できればもっと良いし。ただし、万が一の帰る場所は確保しておかないと保護者が安心して子どもを社会に預ける勇気は出ないと思うので、ステップは踏んでほしい。
希望の会	<ul style="list-style-type: none"> ・企業との連携（商工会等とのつながりを持てるように）
七宝障害児（者）を持つ親の会 通称 つくしの会	<ul style="list-style-type: none"> ・B型で働いている人で一般就労ではきつい人が会員の中にもいるのですが、子は親離れをしたいのだけれど金銭面でとても生活は無理だと親は真剣に悩んでいます。
はとぼっぼ（幼稚園部）ちびはと	<ul style="list-style-type: none"> ・就労の面でも手帳のない子の先がみえない不安が大きい。 ・手帳がある人も今の時点でくすの木等定員がいっぱいであること。 ・就労の後親なきあと子どもたちはどうなるのか？ 市でグループホーム等を作らないのなら障がい児は親がいなくなったらどうして行くのだろうか？
ドルフィンクラブ	<ul style="list-style-type: none"> ・一般就労については、ジョブコーチ等の充実、受け入れ側の環境的な工夫など障がい者にとって必要な働きやすい場を作ること。 ・生活介護レベルの子にも言えることですが、一定時間落ち着いて作業ができる力をつけること。そのためには小さい頃からの療育（個別）が必要だと思います。それが将来の働く力になると思います。
蓮の実会	<ul style="list-style-type: none"> ・あま市に通所支援施設（例いこいの場）特に精神障がい者行政に補助をお願い申し上げます。

6. 障害福祉の向上のために行政や地域に望むこと	
あま市身体障害福祉協会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先ず、市の施設がバリアフリーになっているかの点検をしてはどうか。そして順位づけをして改善を図っていく。
美和心身障害児者父母の会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5の設問と答えは同じ ・ サービス提供事業者や所は増え、その時、その場のニーズには応えてもらえるようになってきていると思いますが、一番大切なのは障害を持っている方のライフステージをホールで考えること!!支えることを考えるなら親亡き後の受け皿も含めて一緒に考えて頂きたい。 ・ 大型の入所施設が増える見込みはなく、それならばグループホーム等の介助型共同生活の場所がより多く必要になってきます。 ・ このような施設は親の会の力だけでは、とても難しく社会福祉法人さんの力が必要です。愛西市の社協さんが立ち上げられたグループホームなどは画期的で良い道しるべとなっていると思います。 ・ ぜひこのような先達を追いかけて、“できない無理”ではなく、どうしたらできるのか先考えられたらと思います。
希望の会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域理解（福祉実践教室の活用） ・ 災害時の支援体制、防災ネットとの一緒に勉強会に行政も参加お願いしたい。 ・ 障がい者の事を理解し、情熱を持った人を育成して親と一緒に活動して欲しいです（人材育成） ・ 世代を分けずお互いが必要な事が助け合える様な町づくり理想で終わらず実現して欲しいです。（シニア、障がい児者、健常者、若者、子供、ざまざま）
七宝障害児（者）を持つ親の会 通称 つくしの会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的弱者に対しての正しい知識を伝える事がまず大切かと思います。 ・ 災害時（地震）の避難、避難所での心配が大きいです。自閉症等むずかしい人も（避難所生活）いるのでそれを含めて大きな課題の1つに」なるかと思います。
はとぼっぼ（幼稚園部）ちびはと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育と福祉の連携が必要だと思います。困った子ではなく困っている子なので適切な支援をしてほしい
ドルフィンクラブ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別の特性やニーズを知る機会を増やしてほしいと思います。 ・ どこにどんな障がい者がいて、何が不足しているのか当事者から発信できない場合も多いので、むずかしいかも知れませんが行政側からのアプローチも必要かと思います。
蓮の実会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者のための公共交通機関をもっと充実させてほしい。行きたい施設があっても行きたくても行けないので、利用できない。